

西市民病院（市街地西部の中核病院）のあり方検討に係る有識者会議について

1. 趣旨

市の将来的な医療需要及び医療提供体制や、西市民病院が抱える課題等を踏まえ、西市民病院の今後の市街地西部の中核病院としてのあり方を検討するにあたり、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、西市民病院（市街地西部の中核病院）のあり方検討に係る有識者会議を設置。

2. 開催概要

(1) 委員構成（◎は座長，敬称略）

伊多波 良 雄	同志社大学経済学部教授
伊 藤 清 彦	神戸市薬剤師会長
岩 佐 光一朗	神戸市自治会連絡協議会長
置 塩 隆	神戸市医師会長
河 原 和 夫	東京医科歯科大学大学院医歯学系専攻教授
成 田 康 子	兵庫県看護協会会長
西 昂	神戸市民間病院協会会長
平 田 健 一	神戸大学大学院医学研究科循環器内科学分野教授
◎邊 見 公 雄	全国公私病院連盟会長
細 谷 亮	神戸在宅医療・介護推進財団理事長兼神戸リハビリテーション病院長
安 井 仁 司	神戸市歯科医師会長
山 下 淑 子	神戸市婦人団体協議会理事

(2) スケジュール

日程	主な議題
第1回 R2. 8. 6 開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の趣旨、スケジュール ・ 神戸医療圏の状況及び西市民病院の現状と課題
第2回 R2. 10. 30 開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地西部において求められる医療機能及び中核病院の役割（救急医療、小児医療、周産期医療、災害医療、感染症医療）
第3回 R3. 1. 6 開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地西部において求められる医療機能及び中核病院の役割（がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、認知症） ・ 地域連携のあり方、市民病院機構間の連携
第4回 R3. 3. 1 開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な診療機能、診療科、病床数 ・ 再整備の方向性
第5回 R3. 4. 23 開催予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書（案）

3. 有識者会議におけるこれまでの議論

(1) 主な診療機能

【総論】

- ・ 市街地西部の中核病院として機能を強化し、地域医療機関との連携・役割分担により総合的な診療機能を向上させ、市街地西部内における受療の完結率を高めるべき。
- ・ 中央市民病院が担う市全体の3次救急を含む高度急性期医療や新興感染症・災害対応の機能を補完する必要がある。

【各論】

- ・ 市街地西部の中核病院として必要な医療を提供し、総合的な診療機能を向上させるため、以下の主な診療機能を強化する必要がある。

項目	必要な診療機能
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市全体の3次救急を補完するため、民間病院では対応が難しい2次救急の中でより高度な診療機能を担う
小児・周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地西部で唯一の総合的な小児・周産期病院として、診療機能を堅持・強化し、地域の活性化に寄与する
感染症・災害医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新興感染症への対応のため、第二種感染症指定医療機関と同程度の機能・体制を確保する ・ 長田区内で唯一の災害対応病院として、大規模災害時にも診療機能を継続するため、医療スタッフやインフラ、トリアージ等のスペースを確保する
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地西部内でのがん治療の3大療法機能を確保するため、需給バランス及び採算性を踏まえて放射線治療機能を導入する
脳卒中・心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療機関との連携のもと、複数疾患を持つ高齢者の増加に対応するため、総合的な診療機能を向上させる

(2) 必要病床数

- ・地域の中核病院として安定的に急性期医療を提供するとともに、新興感染症への対応等を強化する必要があるため、現在と同程度の病床数が必要である。

(3) 再整備の方向性

- ・整備期間中も含め市民に対して必要な医療を提供するため、整備期間中の医療機能の低下を最小限に留め、必要な病院規模を確保できる「移転新築」が再整備手法として望ましい。

	大規模改修	現地建替え	移転新築
主な診療制限	<ul style="list-style-type: none"> ・救急、手術休止 (約 15 か月) ・100 床以上の病床休止 (約 31 か月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急、手術の制限 (約 7 年間) ・100 床以上の病床休止 (約 48 か月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・移転に伴う機能制限 (約 2 か月)
建物規模	69 m ² /床	76.5 m ² /床	100 m ² /床
工事期間	約 6 年間	約 12 年間	約 4 年間
概算事業費	170～190 億円	210～240 億円※	230～260 億円

※100 m²/床の規模で整備する場合 250～290 億円

(4) 市街地西部の中核病院に求められる立地や環境・機能

項目	委員からの意見
来院者の利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・移動が困難な高齢者や働きながら通院する患者をはじめ、全ての利用者のため、駅やバス停に近く、利用しやすい病院にしてほしい。
医療機能の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地西部の中核病院として必要な医療を提供し、総合的な診療機能を向上させる建物規模の確保が必要である。
感染症・災害対応	<ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症等に対応可能な病床や、災害時に対応可能な余地の確保が必要である。 ・地震や津波などの災害リスクの少ない立地が重要である。災害時でも医療を守れるような機能を持っていただきたい。
地域医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の医療機関との連携・役割分担等を考慮した位置関係も重要である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要なサービスをワンストップで提供できるような環境があれば望ましい。 ・住民とコミュニケーションが取れる施設などがあっても良い。まちづくりや地域の活性化も重要である。 ・職員にとっても働きやすく、魅力のある病院にしてほしい。

4. 今後の予定

- 4月23日 第5回会議（報告書とりまとめ）
- 4月中 市民ネットモニターアンケートの実施
- 6月以降 基本方針案の公表、市民意見募集（パブコメ）、基本構想の策定